

## ■調査項目

### かごしま環境未来館について

- ・調査対応者

公益財団法人かごしま環境未来財団 事務局長 土村 聡様

- ・調査期日

平成28年10月19日(木) 14時00分～15時30分

- ・鹿児島市の概要

人口：605,846人

世帯数：286,211世帯

- ・調査目的

当施設の取り組みを研究し、本市の指定管理施設の考え方の一助とする。

- ・調査内容

#### 【公益財団かごしま環境未来館からの説明】

##### ◆設置目的

市民・事業者が環境について関心や理解を深め、日常生活や事業活動において、自発的に環境保全活動を実施するとともに、その活動の輪を広げていくことを促進するため、本館を設置。

##### ◆建物の理念

- ・緑の大地：敷地全体を使い豊かな緑を創出する。

- ・自然との共生：自然がもたらす恵み「緑・水・空気・光」を最大限に活用する。

##### ◆運営の基本方針

- ・パートナーシップで人と人がつながり、楽しみながら学び、交流・参加する。

- ・行動する人づくりや仕組みづくりを市民等との協働で進め、その成果を発信する。

- ・環境に配慮した生活や行動に踏み出すことを支援する。

- ・環境保全活動に主体的に取り組む人材を育成する。

##### ◆事業内容

#### 1. 環境学習の推進

- ・環境学習講座

市民一人ひとりが環境問題を楽しく学び、環境に配慮した生活や行動ができるよう参加体験型の環境学習講座を実施している。

・環境学習資料の展示の解説・案内

環境についての意識を高め、楽しく分かりやすく学習するための教材として、「気づき」「知る」「学び」「実行する」を踏まえた展示を行っている。

※ ゾーン1：世界はつながっている

※ ゾーン2：地球はすでに限界を超えている

※ ゾーン3：わたしたちがしてきたこと わたしたちがすべきこと

※ ゾーン4：あの日に帰って考える 今日という名の未来

・環境学習プログラムの実施

環境学習に分かりやすく、楽しく取り組むことができるように、参加者に、受動的ではなく、能動的に環境問題を考え、日々の生活につなげてもらうことを目的とした環境学習プログラムを実施している。

・環境クイズ

環境についてクイズ形式の問題をゲーム感覚で解きながら勉強するもので、一人から大人数まで楽しく環境学習を学ぶ。

・企画展・環境イベント

環境への関心を広く喚起し、行動につなげるようなイベント・企画展を、環境に取り組む市民や市民団体等と協働で実施している。環境フェスタ、甲突川リバーフェスティバル、環境アートフェスティバル、環境関連月間等企画展、環境活動発表交流会などを実施。

・講演会、シンポジウム

環境学習・保全活動に関わる多くの人々との交流により、パートナーシップやネットワークの絆を深める。

また、環境意識の高揚や環境保全活動への機運を高める。

2. 環境情報を収集提供

・かごしま環境未来館だよりの発行

環境未来館の施設案内、利用方法、環境学習講座、イベントなどの情報を提供する。

・市民団体活動支援

環境保全活動団体の活動情報やイベント情報、ボランティア団体の人材募集情報などを提供する。

- ・情報コーナー（図書、DVD）

環境に関する学習や保全活動方法を調べるための情報として、図書の閲覧・貸出やDVDの閲覧等を行っている。

- ・未来館屋上・フィールド緑化

建物や敷地全体を緑化している。

### 3. 環境学習・保全活動を支援

- ・地域まるごと環境未来館創造事業

環境未来館とサテライト団体をネットワークで結び、環境学習や環境保全活動を地域の人々と協働で展開している。

- ・環境学習器材等の貸出

自主的な環境学習や環境保全活動に必要な器材の貸出しを行っている。

- ・環境学習講師派遣

市内の小中学校やPTA、町内会などの各種団体の実施する環境学習活動や、環境保全活動をサポートするため「かごしま環境未来館講師派遣事業」として、かごしま環境未来館の環境学習講座などでご活躍の講師の方々を派遣している。

- ・活動支援室貸出（登録団体・サテライト団体）

継続的に環境保全活動に取り組んでいる団体が、未来館を拠点として活動しやすいように、環境未来館の団体登録等を行うと、専用利用する用品保管庫やメールボックスを貸出している。

- ・環境活動発表交流会

登録団体やサテライト団体などの活動情報の交換、ネットワークの構築、活動評価の機会とするために環境活動発表交流会を開催している。

- ・こどもエコクラブ交流会

自主的な環境学習や環境保全活動を行う「こどもエコクラブ」を対象に実施し、子どもたちの環境保全意識の高揚を図るとともに、各クラブ間の交流と連携を深めている。

- ・エコパ活動支援

市民・事業者・行政でつくった「環境パートナーシップかごしま（通称：エコパかごしま）」の環境保全活動を支援している。

#### 4. 考え・行動する人を育む

- ・環境未来館サポーター制度の運用（ボランティア）

「かごしま環境の匠」等と協働して、展示案内等の館の運営を行っている。

#### 5. リユース・リサイクル活動を促進します

- ・リサイクル工房

リサイクルに関する講座を行っている。

- ・リユース・リサイクルショップ

→ ショップ：市民から不用品として提供される未使用の日用品（茶碗、タオルなど）を陳列しポイント制により交換。

→ 3R展示コーナー：「リデュース」「リユース」「リサイクル」のパネルなどを展示。

- ・エコフリマ（不用品交換）コーナー

不用品の「あげます」「ください」の交換情報をインターネットで提供している。

- ・フリーマーケット

リユース・リサイクル活動促進のため、環境未来館のフリーマーケット広場の貸し出しを行っている。

#### ◆経緯

H16年度 基本構想、基本計画策定

H17年度 基本設計、用地取得

H18年度 実施設計、工事着手

H19年度 工事

H20年度 建設竣工（5月）

H20年度 開館（10月）

#### ◆事業費

約43億6千万円

（用地費：22億2千万円、工事費等：21億4千万円）

（財源：国庫補助＜まちづくり交付金＞39.5%、起債＜合併特例債＞56%  
一般財源4.5%）

#### ◆管理体制

指定管理者：公益財団法人かごしま環境未来財団

職員数：職員6人、嘱託員21人

27年度委託料：158,000千円

◆来館者数

H25年度 106,744人 H26年度 104,205人 H27年度 112,804人

【質疑応答】

Q、屋根が芝生になっているが火山灰の影響は？

A、特にありません。ちなみに天然芝を使用しており手入れが大変である。

Q、指定管理の費用割合は？

A、人件費が6割強になります。初期費用、展示関係が4億円程度である。

Q、H26年より当館で行われている講座数が減っているが理由は？

A、H25年度まで鹿児島市の直営で、26年度～当財団が指定管理を受けている。そのため、取り決めに従い最低限度とされる160講座に合わせている。

Q、どのような団体が利用する？

A、小中学校の利用が最も多く、その他の団体としては里山活動団体、大学のゼミなど会議室として利用される団体もある。

Q、当館を作ろうとなったきっかけは？

A、鹿児島実業高校の移転がきっかけ。この空いた土地をどのようにするべきか、当時の市長が考え行ったものである。合併特例債の申請時期でもあり基金で対応はしていない。

Q、リサイクルショップの取り組みが面白いがどれくらいの人がかかるのか？

A、10人～20人/日程度。紙オムツを持ってくる人が多い。

【呉市での展開の可能性】

私たちが住んでいるこの地球は、人間だけではなく他の多くの動物や植物にとってもかけがえのない場所である。

しかし近年の人間の生活や経済活動によって、この地球の環境に大きな影響を及ぼし、これが年々深刻な状況になってきている。

例えば有名な地球温暖化ですが、これは地球全体の気温が上がってしまうことである。またオゾン層の破壊、酸性雨、大規模な森林伐採による熱帯雨林の減少など、地球環境の変化に関わる深刻な問題は数多くある。

当施設はその問題に対して実際の漂流物や写真、映像を通して、これからどのように私たちが環境について考えるべきか訴えかけている。また、鹿児島県はか

ごしま環境都市宣言（H20.10.10）を行い、制度で言うと、鹿児島市内の環境活動団体に対し上限を3万円として助成金を交付しており（H28.4.1：環境パートナーシップ活動助成金交付要綱より）、県・市をあげて環境問題に取り組む姿勢を感じる。その情報発信・交流施設である当施設は、環境問題の取り組みについて鹿児島市にとっては中心的な役割を担っているのであろう。しかし、個人的に感じる事は、世界に共通する最も大切な問題を発信している崇高な目的があるが、43億6千万もかけて維持することは市にとって、体力的につらいものではないであろうかと感じる。維持費も市民の税金だと考えると、直近の3年が約10万人/年の来館者であることに対して市民はどう感じているのでであろう（利用する人、しない人含め）、そういった疑問が頭に浮かぶ。来館者が少なくとも、その一人ひとりに大切なメッセージをこころの奥底まで響き伝えることができればよしなのか、それがよしとしてもその成果は図りにくいですし、数値化が難しい。

本市において当館から学ぶことは、交流拠点の充実化と、県と市が足並みをそろえ環境というテーマを強く発信しているところにある。市役所が交流拠点の場となっているか、何かのコンセプトに特化することが呉市と県でできているだろうか。テーマを持った交流拠点の充実、そしてそれが何をもって成果とするか、呉市において考えてもいいのではないかと感じる視察であった。

佐賀県鳥栖市

■調査項目

九州国際重粒子線がん治療センター(サガハイマツト)について

・調査対応者

公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団 専務理事 北村信様  
佐賀県健康福祉部福祉課 粒子線治療普及担当 主査 田中丈晴様

・調査期日

平成28年10月20日(木) 午前10時00分～午後11時50分

・鳥栖市の概要

人口：69,074人

世帯数：27,884世帯

・調査目的

先進的医療を学び、本市においても活用可能か考察する。

・調査内容

【公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団からの説明】

◆設置目的

公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団は、重粒子線によるがん治療を通じて、安心、安全な医療を提供し、佐賀県内はもとより、国内外における医療・福祉の向上とがん治療の進歩・発展を図り、「がん撲滅」に寄与することを目的に設置。

1. 重粒子線がん治療
2. 重粒子線がん治療のための人材育成
3. 重粒子線がん治療に関する研究
4. 重粒子線がん治療に関する普及啓発
5. その他この法人の目的を達成するために必要な事業及び前各号に関連する事業

◆重粒子線がん治療とは

重粒子線がん治療は、放射線療法のひとつです。光の速さの約70%に加速した炭素イオンを、がん病巣に狙いを絞って照射する治療法である。

#### ◆重粒子線がん治療の特徴

##### <がん病巣を集中的に照射>

従来からの放射線治療に用いられているエックス線の場合、体の表面近くでその効果が最大となり、エネルギーを出しながら体を通り抜ける。一方、重粒子線は、体のある一定の深さでエネルギーのピークを迎え、その前後では弱く抑えられるという特性がある。このピークになる深さをがん病巣の位置に合わせることで、がんだけを集中的に狙いうちすることができ、体の深いところにあるがんにも治療効果が期待できる。

##### <副作用が少ない>

がん病巣だけを集中的にたたため、まわりの正常細胞へのダメージ（＝副作用）を最小限におさえることが可能。

##### <通院治療が可能>

体を切らずに済むため、通院でがんの治療ができる。また、高齢などで体力に不安がある方も治療が可能である。

##### <難治性がんの治療も可能>

骨肉腫などの従来放射線治療が効きにくいがんや、複雑な場所にあるために手術が困難ながんにも治療の可能性が広がる。

##### <治療期間が短い>

重粒子線は、陽子線やエックス線、ガンマ線と比べて、がん細胞を殺傷する能力が2～3倍ほど高く、一回の照射で得られる効果が大きいため、治療期間を短くすることができる。

#### ◆部位別治療患者数（～2016年9月30日）

合計：1,614人（前立腺：1069（67%）、肝臓：158（10%）、肺・縦隔：131（8%）、すい臓：89（5%）、頭頸部：83（5%）、骨軟部：33（2%）、その他51→※直腸・腎臓・リンパ節等（3%））

#### ◆住居地別治療患者数（～2016年9月30日）

合計：1,614人（福岡811（50%）、佐賀278（17%）、長崎126（8%）、熊本119（8%）、大分65（4%）、山口61（4%）、宮崎56（3%）、鹿児島37（2%）、その他61（4%）→※東京・広島・沖縄・愛媛・愛知・大阪・埼玉・島根・京都etc）

#### ◆事業費

150億（企業の出資・寄付：85億、金融：28億、佐賀県補助金：28億、福岡県：6億）※減価償却期間は15年

## 【質疑応答】

Q、治療費はどのくらいかかるのか。

A、先進医療として314万円の自己負担になる。しかし、切非適応の骨軟部腫瘍について、公的医療保険が適用されます。また、商工会のつながりでアクサ生命ががん保険の特約として、重粒子線治療があるのでそちらの民間保険を利用してもらおうかになります。

Q、治療費は全国均一なのか。

A、各医療機関が設定する。神奈川ではもう少し高い治療費だったと記憶している。

Q、ベット数はどれくらいあるのか。

A、通院治療なので病床は一切ありません。遠方の方は近くの宿泊施設へ泊ってこられることもあるが、たいていの人は通院である。

Q、胃がんなど治療対象にならないのはなぜか。

A、不規則に動くため、照射ができないため。

Q、シンクロトロンは日本メーカーか。

A、うちは三菱電機さんのを使っています。神奈川は東芝、大阪は日立さんです。

Q、ドクターは何名か。

A、5名体制であり、放射線治療医のくくりになる。しかし先進医療であるので、独自の訓練が必要になる。そのため大学と連携して授業の一環として重粒子線技法の実習などもある。

Q、呉市にもこのような施設は誘致可能か。

A、もちろん可能である。地域図を見ても、今後は東海地方、中国地方にこういった施設があれば全国がカバーできるようになる。

Q、それでは誘致にはどのようなことが必要か。

A、まずは中国地方で重粒子線治療をどこがやるか。そして患者数を確保できる立地はどこか。そういった考えが必要である。

Q、サガハイマットの成功の要因は。

A、患者数の確保が成功と仮定すれば、要因は立地と九州の連携力だと思う。最寄りの鳥栖駅には新幹線が通り、鳥栖ICは九州自動車道の交点でもある。また、九州の島国根性といいますかオール九州という力が強く、大学・医師会・病院が一丸となってサガハイマットの取り組み（重粒子線治療）を後押ししてくれたことも大きな要因であると思う。適応患者の紹介、スタッフの確保育成などたくさん関係者により支えられている。

Q、課題は。

A、言葉が不適切かもしれないが、当治療も持続的に行っていくためには患者数の確保が必要になってくる。その確保は紹介などで多くあるがより、たくさんの人に知ってもらい重粒子線治療を選択してもらいお互いメリットを感じたい。現在3つ目の治療室を準備中でもあるが、キャパシティを多く持ち多くの患者さんを受け入れる体制を作る事も課題である。

#### 【呉市での展開の可能性】

切らずに治せる治療法という言葉に驚き続けた今回の視察であった。こういった最先端治療は呉市において展開すべき施設であると大いに感じる。なぜなら、社会福祉として先進医療はより充実したサービスであり、市民に対して身近にあるということは大きな安心感につながるからである。しかし、それをどうやって呉に誘致するのか、その問題が大きくのしかかる。現に、まだ、中国地方内において重粒子線治療施設を置くかどうかははっきりしていないし、仮に呉に設置するとしても、そのお金をどうやって準備するのか、また、設置できたものの、持続的な病院経営が呉市でできるか、課題は山積である。

我が会派は当施設の建設前から、佐賀県の取り組みに興味を持ちこの施設の完成を非常に楽しみにしており、この度その内部を見られたことは非常に有意義であった。約150億をかけ建設した当施設は、佐賀県の目玉事業だったと感じます。近隣県市町村を巻き込み、どうしても成功させるんだというオール九州、オール佐賀県の意気込みを感じる。呉市においても国や県と協力し今まで以上に大きいインパクトのあることをやっていかなければならないと感じる。

## 福岡県久留米市

### ■調査項目

ふるさと納税について

#### ・調査対応者

総務部総務課 課長補佐 堤隆一様

総務部総務課 総務チーム 専務主査 箔谷恵様

#### ・調査期日

平成28年10月21日（金）午前10時00分～午前12時00分

#### ・久留米市の概要

人口：302,770人

世帯数：125,084世帯

#### ・調査目的

盛り上がりを見せる久留米市のふるさと納税について研究、呉市にいかす。

#### ・調査内容

##### 【久留米市からの説明】

###### ◆背景

H27年度の税制改正により、ふるさと納税の特例控除額の控除限度額が、個人住民税所得割額の2割（現行1割）に引き上げられ、確定申告を必要とする現在の申告手続について、当分の間の措置として、次のとおり、確定申告不要な給与所得者等が寄附を行う場合はワンストップで控除を受けられる「ふるさと納税ワンストップ特例制度」が創設されるなど、ふるさと納税へ関心はさらに高まりました。そこで久留米市として、記念品の充実による寄付者の獲得、および久留米の魅力発進を目的に動く。

###### ◆経過

H20年6月 久留米市ふるさと納税「ふるさと・くるめ応援寄附」スタート

H26年4月 記念品6→28へ見直し

H27年4月 記念品28→104へ見直し、ポイント制導入

H28年4月 記念品227へ見直し、特設サイト導入

###### ◆実績

H25 10,648千円 798件  
H26 33,712千円 2,197件  
H27 1,759,429千円 31,046件

※平成27年度寄付実績額：久留米市は全国で第13位（件数：36）

#### ◆制度の見直し

##### ・ポイント制の導入（H27）

寄付金額に応じて、自由に記念品を組み合わせる選択ができるよう上記導入。寄付金1万円ごとに5ポイントを付与、付与したポイントは寄付した日の翌年度末まで使用可能として、蓄積しての使用も可能。

※H28年度は～寄付金2千円ごとに1ポイントを付与と見直し

##### ・年内回数制限を廃止（H27）

ご寄付をいただいた方への記念品贈呈は年内に1回限りとしていましたが、回数制限をなくした。

##### ・クレジット決済の大幅な時間短縮（H27）

これまでのクレジット決済は、決済に必要な番号を寄付者と久留米市でメールのやり取りをしていたため、営業日の都合上最長4日程度かかっていましたが、ふるさと納税ポータルサイトのシステムを利用することで決済が最短5分程度で完了するようになる。

##### ・「久留米市ふるさと納税特設サイト」の新設（H28）

久留米市独自のサイトを新設。制度概要、寄付金の使い道メニュー、使い道実績、記念品等の紹介、寄付申し込み方法、ポイント管理、応援メッセージ投稿等

#### ◆記念品の見直し

##### ・食べ物を充実（H26～）

記念品としてこれまで人気が高かった久留米産フルーツ、野菜に加えて、肉やスイーツ、加工食品の充実を図る。また、H28年度は時季に応じた申し込み受付をおこなっている。東北復興支援商品として姉妹都市郡山市産のお米なども受付。

##### ・伝統工芸品を充実（H27～）

巧の技術によって作られた伝統工芸品等を記念品に加え、久留米市のものづくりのレベルの高さを全国へ発信。

##### ・ゴム産業商品を充実（H27）

ゴム産業のまち久留米を全国に発信するため、ブリヂストン、アサヒコーポレーションの商品を充実した。

・体験型コースを新設（H27）

自然、文化、芸術、ものづくり、グルメ、医療などの魅力を久留米市にお越し  
いただき体験していただくコースを新設

→一押しドライバーと巡る日帰りタクシーツアー

→久留米の体験型観光「まち旅」ご招待（1泊2日）

→先進医療都市久留米であなたの体を徹底チェック！

◆寄付金使途指定状況

|               |         |              |
|---------------|---------|--------------|
| 未来に羽ばたけ！くるめっ子 | 10,182口 | 584,578,717円 |
| 歴史・文化・芸術に楽しむ  | 2,801口  | 151,742,700円 |
| いつまでも健康に過ごす   | 2,623口  | 153,119,200円 |
| ふるさとの花と緑をふやす  | 2,580口  | 116,526,001円 |
| くるめの魅力を伝える    | 1,548口  | 74,159,000円  |
| 市長おまかせコース     | 11,436口 | 679,267,717円 |

【質疑応答】

Q、特設サイトはどれくらいのコストがかかるか。また、登録数はどうか。

A、400万円程度である。H28現在で15,112件申し込み受付がありそのうち5,800人の登録である。

Q、特設サイトを開設するメリットは。

A、ふるさと納税のサイトだと寄付金の1割手数料がかかるので、それがなくなる事と、サイト登録者から情報分析ができる。

Q、サイトを見るとアンケートがあるがその数値を教えてください

A、年代>20代2.7% 30代17.1% 40代26.4% 50代21.4% 60代8.4% 70代2%  
動機>応援したい35.1% 久留米にきたから9.4% 家族・知人がいる6.4%  
久留米出身である2.7% 商品がいい45%

Q、選べる応援メニューの記載は区分・事業名も記載しているか

A、応援メニュー名しか記載しておりません。

Q、体験型コースはどれくらい申し込みがあるか

A、H27年～これまでに1件の申し込みしかありません。

Q、商品にメーカー名の記載はあるか。

A、なし。送られてみたらわかる。

### 【呉市での展開の可能性】

呉市においても食や伝統などの資源は豊富であるため、久留米市と同じく商品の充実を図り、寄付金の申し込み額を上げる事は容易に感じる。しかし一番すべき事と感じたことは特設サイトの開設である。なぜかというと、手数料のマージンカットもそうだが、どのような人が何を求めて寄付をしたか登録させることにより分析ができることである。ターゲットの動向を知らない限り競合他市がひしめき合うこのふるさと納税市場で、長期的に勝ち抜く事は難しい。

一方で危惧することは、高額納税者の税控除のための制度になっており、本来のふるさと納税の趣旨とずれが生じつつある。上記のように、寄付金額をアップさせるため副賞である商品の充実が目的になり、目の前のことばかりに集中しているように感じる。実際、久留米においても商品がいいから寄付する、応援メニューは理解がないから市長おまかせコースになってしまう。重複するが本当にふるさとをおもって寄付していないところが問題になる。そうだとすると、件数は少なかったものの、久留米市体験型コースのふるさとサービスが本来の思いにあっていると感じる。

ふるさとを応援することと、寄付金を募ることが徐々に乖離している状況は目的の達成状況が変わってくる。今一度、ふるさと納税について考えるいい機会となった。